

3. 地震発生時に教職員が行う指示と行動

(1) 授業中に地震が発生した場合(校舎内)

- ・ 教師の指示は大声で短い表現で明確に行う。また、冷静に生徒の状況を把握し、必要な指示、注意を与える。脱出口は1カ所以上確保する。
- ・ 避難は、原則的には本部の指示、連絡によって開始するが、連絡が取れない場合は各教室にいた教師の判断によって行動する。動揺している生徒や負傷者、障害のある者に対しては特に配慮し、助け合いながら避難できるようにする。

○生徒の行動の仕方及び注意事項

<発生時の初期行動>

- ・ 騒がない
 - ・ 勝手に外へ出ない
 - ・ 先生の指示を静かに聞く
 - ・ 窓や壁から離れる
- ☆机の下にもぐり机の脚をつかむ
☆座布団やカバンなどで頭部を守る
☆使用中の火を消す

<指示例>

- 「落ち着いて、静かに」
「外へ出るな」
「大丈夫、静かに話を聞きなさい」
「窓から離れて」

<避難行動>

- ・ 速やかに廊下へ出て並ぶ
 - ・ 素早く避難する
 - ・ おさない、かけない、しゃべらない、もどらない
- ☆学用品などは持ち出さない
☆決められた避難場所へ集合し、点呼に協力する

<指示例>

- 「廊下に並んで」
「先生について来なさい」
「走らない、押さない」

(2) 休憩時間中に地震が発生した場合(校舎内)

- ・ 廊下階段等では、柱に身を寄せるなど身の安全を確保し、校内放送等の指示を待つ
- ・ 教師はできるだけ早く担当する教室や場所に直行し、校舎内の生徒を掌握する

(3) 登下校中に地震が発生した場合

- ・ 看板、屋根瓦、窓ガラス等の落下物に対して、カバンなどで身を守る
- ・ 倒れるおそれのある建物やブロック塀などに近寄らない
- ・ 家までの距離と学校までの距離を考え、原則として近い方へ行くようにする
- ・ 日ごろから震災時おける家族との緊急の連絡方法や連絡先、落ち合う場所を決めておく

□配慮を要する生徒の誘導については、全校で取り組む→全生徒に意識を持たせる